

事業所名

多機能型事業所ほっぴ

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

R7

年

3月

4日

法人（事業所）理念		法人理念：人とのつながりを大切に、地域とともに成長し、人生のかけがえのない存在になる 事業所理念：十人十色 ○子ども一人ひとりの個性と自主性を尊重し、特性に合った個別支援を行います。○誠実で健全な事業運営を行います。				
支援方針		運営方針：・利用者(子ども)の安全を第一に考えます。・他者とのコミュニケーションを通じ、協調性を身に着けます。・長所を伸ばし、短所を理解します。・親御さんにとっても信頼できる子育てのパートナーとなります。				
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	・手洗い・うがい練習（絵カードや歌を使って楽しく習慣化）・食事のマナー（スプーン・フォーク、箸を使って食べる練習）着替えの練習（ボタンやファスナーを自分でできるように支援）・トイレトレーニング（トイレの流れを視覚的に示して習慣化・オムツを外すための訓練）・安全教育（道路の渡り方、危険なものを避ける方法を学ぶ）				
	運動・感覚	・粗大運動（バランスボール、トランポリン、かけっこ、リズム体操） ・微細運動（ビーズ通し、ストローさし、洗濯ばさみ、シール貼り、折り紙、ハサミの練習） ・感覚遊び（粘土・スライム・水遊びなど、触覚を刺激する活動）				
	認知・行動	・間違い探し（視覚的な注意を向上させる）・動作模倣遊び（「先生の動きをまねしてね!」）・色や形を探すゲーム（「赤いものを見つけよう!」）・「ストップ＆ゴー」ゲーム（注意をコントロールする練習）・神経衰弱（カードゲーム）（視覚的記憶を鍛える）・買い物ごっこ（「牛乳とパンを買ってきてね!」）・絵カードの順番並べ（ストーリーの流れを記憶）・リピートゲーム（「さっき言った言葉をもう一度言ってね」）				
	言語コミュニケーション	・絵本の読み聞かせ（話の内容を聞いて理解する力を伸ばす）・指示ゲーム（「赤いブロックを持ってきて」など、言葉の理解を促す）・しりとり・言葉遊び（遊びながら語彙を増やす）・ごっこ遊び（お店屋さんごっこや人形遊びで会話の練習）・質問ゲーム（「好きな食べ物は何?」「どこに行ったの?」などやりとりを増やす）・指差しやジェスチャーを活用（まだ話せない子ども意思表示できるよう支援）				
	人間関係社会性	・あいさつ練習（おはよう、ありがとう、ごめんなさいを自然に言えるように）・順番・ルールを守る遊び（椅子取りゲーム、カードゲーム）・協力活動（お片付け競争、ペアで課題をこなす）・役割分担遊び（みんなで料理ごっこ、掃除ごっこ）・社会体験活動（公共施設へお出かけ、買い物体験）				
家族支援		・親御さんの気持ちに寄り添い、いろいろな相談を受けられる良きパートナーになる。 ・きょうだい児への対応やなどの相談も必要に応じて行っていく。		移行支援		・社会性を向上させることで保育園や学校など、一般生活における居場所をつくり、過ごせるように支援していく。
地域支援・地域連携		・担当の相談支援員、学校や保育園の先生等、利用者の取り巻く環境に関係する人たちとの連携を図り、利用者の支援に活かすとともに、同じ目標を持って包括的に支援を行えるようにする。		職員の質の向上		・研修を通じ、個々のスキルアップを進めるとともに、研修で受けた学びを共有し、職員全員で学びを深めていく。 ・利用者のことを、職員全員で考え、よりよい支援につなげていく。
主な行事等		・季節の伝統行事 ・課外活動（食育・体験・触覚・季節の遊び・買い物体験・散歩等で交通ルールに触れるなど） ・集団活動…室内遊び（ルールを子どもたち自身で作る） ・子どもたちがしたいことを決め主体的に活動を行えるように、支援者はそのサポートをしたり、ヒントを与えたりしていく。				